

令和7年度 浅川中学校学校経営計画

八王子市立浅川中学校長 市場 陽一郎

はじめに

目指す生徒像は「人と人との関わりから学び合い、社会に貢献できる生徒」である。本校の校訓にもある自律と調和を意識し、人への優しさを大切に、関わって学び成長する生徒を理想としたい。現在、生徒は関わり合い学ぶようになってきた。「誇れる上級生」と「学ぶ下級生」が良いサイクルで回り、学校全体が成長しつつある。これからもさらに他を認めるのと同時に自分事としてものごとを考え、主体的に課題を解決する力を生徒に求めたい。そのために「自己指導能力育成」と「学び合う授業」づくりに学校挙げて取り組みたい。そして生徒、保護者、地域から信頼され応援される『共に学ぶ、もっと優しい学校』という学校風土が定着するように努力を続ける。

これまでの本校の取り組みを基に自己肯定感の醸成、より良い人間関係の構築を行い、生徒が主体的に活動する姿が見える学校づくりを行う。そのためにも教職員自身の主体的、協働的な姿勢と学校経営参画意識を重視し、教育活動をより充実させ、変化し進化させていく。

教育理念、『けじめ（自律）をつけ、意欲的に学習（学び合い）に取り組み、仲間（人権意識）を認め互いに思いやる心をもてば、必ずそこに感動（気づき）が生まれる。』を忘れることなく、この「感動」を学校全体で感じ、誇りとし、更なる成長、改善への力としていく。

★校訓★ 『誠実』・『自律』・『調和』

1 教育目標

自ら、確かな学力、豊かな人間性や社会性、たくましい体を主体的・創造的に育み、その能力等を、自己実現及び社会の発展のために発揮できる生徒を育成する。

◎ 自ら学び考え行動する生徒 ・ ・ ・ ・ ・ 【今年度の重点】

- 豊かな心を持ち、思いやりのある生徒
- 心身ともに健康で、たくましく生きる生徒

2 目指す生徒像

『人と人との関わりから学び合い、社会に貢献できる生徒』

- ◎自律と調和を意識し、人への優しさを大切にする生徒
- ◎関わって学び、成長する生徒
- ◎常に当事者意識を持ち、自分事としてものごとを考える生徒

3 目指す学校像

『共に学ぶ、もっと優しい学校』地域運営学校として公立学校での使命を果たす学校
 <「人と関わり、生きる力」を育む学校>

- ・共に学び、豊かな人間性や社会性を育てる学校
- ・自己決定力、自己指導能力を身につけられる学校
- ・自分や学校、地域を誇れる生徒を育てる学校
- ・確かな学力、学び方を獲得できる学校
- ・生徒の自己肯定感を高める学校

<教職員が充実感を持てる学校>

- ・教職員が伴走者（ファシリテーター）として、生徒の輝くところに気づき、支え、伸ばす学校
- ・教職員が誇りを持ち、同僚性を大切にして、チーム浅川として協働、実践する学校

＜保護者・地域に信頼される学校＞

- ・保護者、地域と連携し生徒のために教育する学校
- ・地域の誇りとなる学校
- ・入学させてよかったと実感できる学校

学校経営の基本方針ー経営のスローガンおよび指導方針ー

愛情・誠実・使命感をもって行動し、^{「学校経営のスローガン」}『共に学ぶ、もっと優しい学校』を目指す。

通常学級、通級指導学級を持ち、地域に支えられ、穏やかに学ぶ生徒が多いという本校の特色（強味）をいかし、共に学び、高め合う学校創りを目指していく。しかし、集団不適應に苦しむ生徒も少なくない。不登校の防止やいじめ防止を常に意識して教育活動を行う。

そのために、人と人とのつながりを大切に、認め合う学級、学年経営を行う。具体的な方策として「学び合い、聴き合う授業づくり」を進める。生徒一人一人の学力を保障することはもちろんであるが、互いに認め合い高め合うという人権尊重の精神を毎日の授業を通して浸透させることにより、いじめ、不登校はもとより生活指導上の問題発生を予防する。同時に、自らの課題や特性と向き合い、より前向きな気持ちで生活する「強さ」を生徒たちに求めたい。今後も教職員同士や保護者、地域関係者との交流での「学び合い」により教職員の指導力向上や地域との連携推進を図る。

今年度の指導の重点

教育目標から **自ら学び考え行動する生徒の育成**

『学び合う授業づくりと、優しく自律した主体的な生徒の育成』

⇒ そのための合言葉は『もっと優しく、もっと強く浅川中』・・・みそあじは運動

～学校全体が一体感、同僚性を持って、丁寧に指導、支援を行う～

《褒めて育てる指導⇒温かく、時に厳しく、大事に育てる》

《「けじめ」なきところに成長なし、感動あるところに信頼あり》

「けじめ」「学び」「仲間」「感動」

1. 聴き合い、学び合い、自ら成長しようとする生徒の育成のために

今年度も「話を聴く」力、姿勢を身につけさせ、コミュニケーション能力の向上や対話的な学びや共働的な学びにつなげる指導を強く意識して取り組む。

◎自律のための自己指導能力育成と温かい人間関係

- ・「みそあじは運動」を優しい行為として捉え、全教職員が共通認識を持ち指導支援する。
「み」自律を促し規範意識が高め、誰もが安心して過ごせる優しい学校を目指す。言葉遣い、場に応じた行動もみだしなみ。

「そ」そうじは誰かのために頑張る優しい行動。4 人班で責任ある行動を。

「あ」あいさつは相手を認め、思いを伝える優しい行為。良いあいさつができるように。

より良い人間関係の構築につなげ、いじめや不登校の防止に。同時に、あいさつは主体的で前向きな自分をつくる行動であることを意識させる。

「じ」時間は皆のもの。時間を守るのは周囲への優しい行為。ノーチャイム始業の徹底。

「は」話を聴くことも相手を認め、思いを受け止める優しい行為。聴き合う関係づくりを。

・生徒理解の上に立った、生徒の人格を大切にする温かい指導、支援を徹底する。

・教師が伴走者やファシリテーターとして生徒の自己決定を促し指導、支援を行う。

・認め合い、高め合う優しいクラスづくりを全クラスで行う。

・毎週水曜日5校時を「生徒理解の時間」と設定し、いじめ対策、不登校対策（学習支援を含む）への取り組みを全教職員で行う。

・自己肯定感を高め、前向きな学校生活を送らせるために、『もっと優しく、もっと強く浅川中』を合言葉に、授業、学校行事、生徒会活動、委員会活動や部活動などあらゆる場面でリーダー育成、フォローアップを行う。生徒に達成感をもたせる。特に、生徒会活動の活性化を学校全体の主体的な活動につなげていく。

・体育祭、音楽祭、修学旅行、移動教室、校外学習では自律と調和を意識した教育活動となるよう計画、実施する。リーダーを育成する。

◎特別支援校内委員会で生徒への支援の方向性を共有確認し、丁寧に指導支援する。同時にくりやま学級との連携で支援の必要な生徒を支えていく。

2. 学び合い、高め合う魅力ある授業づくり 《「学びの共同体」の理念を基に》

◎ グループ学習を柔軟に取り入れ、協働的な魅力ある授業を展開する。

・教師の授業力を向上させるため、学習進路部学び合う授業づくりプロジェクトチームの連携で年3回の授業研究協議会を持つ。年6回の研究授業（学年研修を含め）、最低2回の個人授業公開を行う。

・課題解決力の養成を目指し、話し合い、考えをまとめさせ、言語活動を取り入れ発表させる機会を設ける。日本遺産高尾山学習などで学年を超えた発表会等を行い意欲とスキルを高める。

・数学・英語の授業を少人数指導で実施する。基礎学力向上を目指して、原則学年所属教員が基礎コースを担当する。

・積極的に生徒理解の時間（水曜日5校時）、放課後学習、補習等を行い、学力に不安をもつ生徒を支援し学習意欲を高める。同時に不登校生徒の学習不安軽減を目指し別室等での学習支援を行う。

・家庭学習の充実と習慣化を図り、（生活ノート、宿題提出、学習計画）学び合い授業後の振り返りの時間を確保する。

◎ 学び合う授業づくり、聴き合う関係づくり（生活4人班、全教室4人班男女市松模様座席等）により、生徒の居場所がある優しいクラスをつくり、コミュニケーション能力の向上につなげる。関わる力を身につけさせ不登校やいじめを防止する。

◎ OJT推進委員会が中心となり、教職員のコミュニケーションスキルを向上させ、教職員同士の学び合いの風土を定着させる。

3. 地域運営学校として『地域から信頼される学校』に＜社会に貢献する意識の育成＞

◎学区に高尾山を持つ学校として、日本遺産高尾山学習に取り組む

・三年間の総合的な学習の時間を通して、日本遺産高尾山学習に取り組み、郷土を知

- り、考え、発信できる生徒を育て、故郷に愛着と誇りをもたせる。
- ・SDG s の考え方を学び、自分事として考え、行動できる生徒を育てる。
- ・高尾山学習、SDG s 学習は浅川小学校との連携を図り実施する。

◎学校運営協議会、青少年対策浅川地区委員会との連携

- ・生徒に積極的に PTA・地域行事、ボランティア活動への参加を促す。その中で地域で活躍し貢献する場や、地域の方々との関わりの中から学ぶ機会を増やす。(ボランティアカードを作成し活用する)
- ・より地域から信頼される学校を目指し、教職員の PTA・地域行事への積極的参加推進。
- ・学校を開き、より多くの地域の方々に本校の現状を見ていただき、理解と協力を得る。
- ・放課後学習の充実。英検、漢検、数検の実施の連携。
- ・授業内個別支援体制への協力依頼。学校サポーターの確保、活用。

4. GIGA スクール構想、ICT 機器活用に挑戦

◎一人一台 PC の積極的活用

- ・教科の授業や様々な教育活動の中で PC 活用を実践する。GIGA プロジェクトチーム（GIGA チーム）を中心に学び合い、トライ＆エラーの精神で前進する。
- ・補充的学習や個別支援での PC 活用を実践する。
- ・緊急事態や不登校生徒対応での PC 活用を試行する。

◎ホームページ、デジタルサイネージの充実と発信、校務の効率化

- ・デジタルサイネージコーナーの充実による情報発信を行い、生徒の意欲、自己肯定感を高める。
- ・学校ホームページにより、地域へ学校情報を発信し開かれた学校にする。
- ・校務の効率化をめざし、校務支援システム（C4th）の円滑な運用、活用を推進する。
- ・ホーム&スクールでの情報提供、収集による校務の効率化を図る。

5. 働き方改革を意識した教育活動・部活動の充実

- ・校務の偏りを減らし平準化を図る。同時に教職員の連携（聴き合う関係）、OJTで効率化を図る。
- ・定時退勤日を毎月設定。職員会議日を基本とする。（個人指定ノー残業日の設定検討）
- ・休暇取得の推進。
- ・全ての部活動に複数顧問を配置し、生徒の活動の保障と教員の負担の軽減を図る。
- ・部活動を通しての「人間形成」を意識し、顧問と生徒の信頼関係のもとに活動を行う。
- ・八王子市、浅川中部活動ガイドラインを基にバランスの良い健全な部活動運営を目指す。
- ・八王子市部活動改革や地域移行へ向けた具体的な取り組みを進める。

6. その他

- ・教育課題研究推進校としての経験を活かし、特別支援教室拠点校としての教育実践を行う。そのことを学校全体（教職員、生徒）や巡回校の特別支援教育理解につなげ、教育的ニーズに応える。
- ・小中連携した教育活動を更に推進する。学力向上や学び合う授業などについて話し合いを継続して行う。
- ・不登校生徒の学習面でのサポートに取り組む。（別室、放課後、個別等）